

# 平成 21 年度学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立小石川高等学校長  
栗原 卯田子

## 1 組織

- (1) 都立小石川高等学校運営連絡協議会(全日制課程)「21 開拓委員会」と呼称する。
- (2) 事務局の構成 総務主任=事務局長、総務部員 2 名 計 3 名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任兼務)、主幹教諭(進路指導主任兼務)、  
生活指導主任、 計 6 名
- (4) 協議委員の構成  
大学院教授・准教授(大学関係者)3 名、PTA 副会長(保護者代表)1 名、同窓会代表 1 名、  
区教委統括指導主事(区教委関係者)1 名、 計 6 名

## 2 平成 21 年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第 1～3 回)の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第 1 回 平成 21 年 6 月 26 日(金) 本校校長室、内部委員 6 名、協議委員 6 名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、「21 開拓委員会」趣旨説明、学校経営計画、学校評価について、  
各部からの報告、協議・意見交換：「小石川高校に何を望むか」(進路指導について)
  - 第 2 回 平成 21 年 10 月 23 日(金) 本校校長室、内部委員 5 名、協議委員 5 名  
学校評価の趣旨説明、各部からの報告、協議・意見交換：学校評価アンケート案
  - 第 3 回 平成 22 年 1 月 22 日(金) 本校校長室、内部委員 6 名、協議委員 5 名  
学校評価について評価委員会からの説明、学校長謝辞、協議・意見交換：評価結果の検討、次年度の提言
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第 1 回 平成 21 年 10 月 23 日(金) 本校校長室、内部委員 2 名、協議委員 2 名  
今年度の学校評価の内容、項目の検討と決定
  - 第 2 回 平成 22 年 1 月 22 日(金) 本校校長室、内部委員 2 名、協議委員 2 名  
アンケート集計結果の分析・考察と協議、提言

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点  
今年度は本校の進路指導を中心にアンケートを実施することにした。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・実施時期 : 平成 21 年 11 月
  - ・対象と規模 : 全生徒 (320 名) 全保護者 (320 名) 全教員 (31 名)
  - ・回収率 : 生徒 (92%) 保護者 (61%) 教員 (100%)
- (3) 主な評価項目  
進路指導を中心に、生徒・保護者・教員に対して 18 項目のアンケートを行った。  
授業評価の項目については、生徒対象に初回(平成 13 年度)より続けている。
- (4) 評価結果の概要(アンケートの分析を中心として)

### ア 進路方針について

- ・自らの目標を定め(立志)、実現に向けて努力をする(開拓)という本校の指導方針は明確に示されているかについては、生徒の73%が肯定的であったのに対し、保護者は93%、教員は87%と、生徒より評価が高かった。
- ・生徒は自分の将来について、しっかり考えているかについては、生徒の82%、保護者の80%、教員の78%が肯定的であった。
- ・生徒の希望を尊重した進路指導がおこなわれているかについては、生徒の81%、保護者の87%、教員の84%が肯定的であった。

#### イ 進路体制について

- ・HR担任は個人面談などの個別の進路指導に十分対応しているかについては、生徒の73%が肯定的だったのに対し、保護者は80%、教員は87%と、生徒よりやや高い評価を示した。
- ・学年に応じた進路指導が計画的に行われているかについては、生徒の79%が肯定的だったのに対し、保護者は87%、教員は87%と、生徒よりやや高い評価を示した。
- ・本校の進路指導が、保護者との連携が密に行われているかについては、生徒は52%、保護者は54%という低率だったのに対し、教員は81%であり、生徒・保護者と教員との間に大きな格差が見られた。

#### ウ 進路指導内容について

- ・大学受験のための情報が学校から提供されているかについては、生徒の81%、保護者の77%、教員の93%が肯定的であった。
- ・夏季休業中などの補習や講習を活用できる体制ができているかについては、生徒の90%、保護者の82%、教員の87%が肯定的であり、全体的に高率であった。[20年度は、生徒63%、保護者63%、教員66%]
- ・外部模試は適切な時期・内容で実施されているかについては、生徒の77%、保護者の90%、教員の84%肯定的であった。[20年度は、生徒67%、保護者88%、教員79%]
- ・「進路指導のための資料(進路の手引き)」は、本校の進路状況や進路指導計画を知るのに有効であるかについては、生徒の82%、保護者の89%、教員の87%が肯定的であった。
- ・大学と連携して実施している入試対策説明会・分野別模擬講義は有益であるかについては、生徒の80%、保護者の91%、教員の77%が肯定的であった。[20年度は、生徒79%、保護者93%、教員73%]
- ・生徒は進路指導室(3階)・資料コーナー(3階)・進路掲示板(2階)などの情報を活用しているかについては、生徒の64%、保護者の57%と低率であり、教員も68%と、全体的にも低い支持率であった。

#### エ 授業関係について

- ・本校の授業の多くは教え方に工夫があるかについては、生徒の70%、保護者の79%が肯定的であったのに対し、教員は87%が肯定的であり、生徒と教員の認識に大きな格差が見られた。[20年度は、生徒73%、保護者78%、教員79%]
- ・本校の先生方の多くは、熱心に教えているかについては、生徒の79%、保護者の90%、教員の81%肯定的であった。[20年度は、生徒84%、保護者89%、教員80%]
- ・生徒の多くは、予習または復習をおこなっているかについては、生徒の65%、保護者の67%が肯定的であったのに対し、教員は45%と低率であった。
- ・授業を大切に熱心に取り組んでいるかについて、生徒の76%、保護者の81%、教員の74%が肯定的であった。

#### オ 生活指導関係について

- ・生徒の心身の悩みに対応できる体制ができているかについては、生徒は60%で、やや低率であり、保護者の75%、教員の68%が肯定的であった。[20年度は、生徒49%、保護者63%、教員72%]
- ・学校行事・クラブ活動などを通して、充実した学校生活がおこなわれているかについては、生徒の88%、保護者の92%、教員の87%と、全体的に肯定的であった。[20年度は、生徒85%、保護者92%、教員100%]

#### カ 自由意見

- ・アンケートの質問項目全般について貴重な意見や要望が寄せられた。その中で比較的、進路指導内容についての意見・要望が多かった。

### (5) 評価結果の考察・分析

#### ア 進路方針について

- ・自らの目標を定め(立志)、実現に向けて努力をする(開拓)という本校の進路方針が明確に指示されているかについては、全体的には支持されていると思われる。だが、保護者・教員の高い支持率(約9割)に対して、生徒は肯定しつつも約1/4は否定的な回答を示しており、保護者・教員との格差が見られる。また生徒の自由意見の中には、立志・開拓・創作という方針が空白であるという意見も見られた。また生徒は自分の将来について、しっかりと考えているかにつ

いては、回答を見る限り、生徒・保護者・教員とも「考えている」という認識を示すものであった。

- ・生徒の希望を尊重した進路指導がおこなわれているかについても、生徒・保護者・教員ともに約8割が肯定的であり、保護者からの自由意見にも、特に厳しい要望や指摘は見られなかった。

### イ 進路体制について

- ・HR担任は個人面談などの個別の進路指導に十分対応しているかについては、全体的に肯定的であるが、その構成をみると教員(8割強)＞保護者(8割)＞生徒(7割弱)の順に肯定率が減少している。また平均化されたデータには表れてはいないものの、生徒の肯定的な回答率には、HRのあいだに格差(51%～100%)も見られた。しかし自由意見では、HR担任からの指導にいくつかの要望や意見が見られるものの、おおむね指導を受け入れているのではないかとと思われる。なお、HR担任以外に進路指導部の教員からも意見が聞きたいという要望や、もっと進路についての面談があってもよいという自由意見もあった。一方で、教員からは、生徒1人1人に対する十分な時間が取れない。もっとじっくりと生徒と向き合いたいという意見も見られた。
- ・進路指導における保護者との連携については、教員は約8割が肯定的であったのに対して、生徒・保護者の5割強しか肯定的ではなかった。この大きな格差の意味を究明し、連携のあり方について検討することは、これからの大きな課題であろう。例えば生徒の自由意見にも、高校生なので保護者との連携の必要性については疑問を持ちながらも、回数的には少ないという意見も見られた。ただ保護者からは、保護者会や担任との面談の通知が、生徒を通さずに直接に保護者に届けられるシステムを求める意見や、年間計画などで早めに保護者会等の情報を知らせて欲しいといった、連絡方法への要望も見られることから、担任から生徒を通じて保護者会や面談を行う連絡が、必ずしも円滑に行われていないことも推測される。現在の連絡方法についても、併せて再検討を行う必要があると思われる。

### ウ 進路指導内容について

- ・夏季休業中などの補習や講習を活用できる体制ができてきているかについては、昨年度より改善されているように思われる。昨年度との比較を数値的に行うと、生徒で27%・保護者で19%・教員で21%の上昇が見られ、生徒の90%が肯定的に評価している。今年度の新たな取り組みが生徒に支持されたのだろうと推測される。
- ・外部模試は適切な時期・内容で実施されているかについては、保護者の90%が評価しているのに対して、生徒は77%と格差が生じている。その理由については定かではないが、生徒の自由意見には、実施する曜日や時期に関する要望や、模試の会社を選択する上での要望、試験日や時間を国立や私立別に分けたり、文系や理系別に分けて行うことの要望、他の模試との日程的な重複を回避する要望など、多様な意見が寄せられた。生徒の要望が多様であるだけに外部模試の実施に当たっては、学年の基本的な姿勢を示す必要があるだろう。ちなみに、昨年度の肯定率と比較すると生徒は10%の上昇、保護者は2%、教員は5%の上昇であった。
- ・大学と連携して実施している入試対策説明会・分野別模擬講義は有益であるかについては、昨年度と肯定率を比較すると、生徒1%・保護者2%・教員4%の上昇であり、ほぼ横ばい状態であるものの、保護者の評価は91%であり、全体的にも高いようである。
- ・生徒は進路指導室(3階)・資料コーナー(3階)・進路掲示板(2階)などの情報を活用しているかについては、生徒の6割弱、保護者の5割強が肯定するだけにとどまり、この件については何らかの改善が必要であろう。生徒からの自由意見には、進路指導室や資料コーナーには行く機会や時間もなく、またその場所に情報があるとは知らなかったとか、赤本などの資料が少ないとか、夏休みに利用できない時がある、というものがあつた。また保護者からは、進路指導室には入りづらいのではないかという意見も見られた。

### エ 授業関係について

- ・本校の授業の多くは教え方に工夫があるかについては、昨年度と比較すると生徒は3%上昇、保護者は1%減少と大きな変化は見られず、生徒の肯定率は7割、保護者は7割強である。また本校の先生方の多く熱心に教えているかという質問については昨年度と比較すると生徒は5%上昇、保護者は1%上昇であり、生徒の7割強、保護者の9割が評価している。つまり授業の教え方や工夫よりも、指導の熱心さの方に少し評価が高い。言いかえると本校の先生方は、一般的に熱心さについては評価されているようだが、教え方の工夫等については今ひとつ努力が求められる、ということであろうか。自由意見にも、先生方の授業のあり方に一定の評価をしながらも、生徒の意見が聞き入れられないとか、授業中のコミュニケーションをもっと図るべきなどの様々な意見が寄せられている。
- ・生徒は予習または復習を行い、授業を大切に熱心に取り組んでいるかについては、昨年度の「生徒は予習・復習を行い、授業を大切に熱心に取り組んでいる。」という質問項目を、今年度は「生徒の多くは、予習または復習を行っている。」という質問項目と、「授業を大切に熱心に取り組んでいる」という項目に2分割した。したがって昨年度と本年度の数値を単純に比較することは出来ないが、データとしては次の通りであった。

◎予習または復習を行っている(本年度)；生徒65%・保護者67%・教員45%

◎授業を大切に熱心に取り組んでいる(本年度)；生徒76%・保護者81%・教員74%

◎予習・または復習をし、授業を大切に熱心に取り組んでいる(昨年度);生徒50%・保護者71%・教員69%  
この数値を分析することは容易ではないが、生徒・保護者が予習と復習をしているという認識と、教員の認識との間には、少なからぬズレがあることは間違いないようである。

#### オ 生活指導関係について

- ・生徒の心身の悩みに対応できる体制ができているかについては、昨年度と比較すると生徒で11%の上昇・保護者12%の上昇・教員で4%の減少と、生徒と保護者に多少の評価が見られる。しかし、肯定率は生徒が6割と必ずしも高い評価ではなく、保護者の7割強との間には格差が見られる。自由意見には、カウンセラーの在籍する日を増やしたり、教員はもっと生徒の考えに耳を傾けて欲しいなどの意見も見られた。また保護者からは、現実の生徒のあり方をふまえ、これまでの小石川高校の先生の指導のあり方に変化を求めるといった要望も見られた。なお、学校行事・クラブ活動などを通して、充実した学校生活がおこなわれているかについては、昨年度と比較すると、生徒は3%・保護者0%・教員13%の上昇率が見られた。これらはすべて8割強から9割弱と高率である。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校の生徒の学校生活について協議委員の方々からは、様々な課題を抱えつつも、大きな観点から見ると、本校の生徒は授業・学校行事・クラブ活動を通じて、充実した学校生活を送っているのではないかと評価を頂いた。この評価を謙虚に受け止めると共に、この評価をさらに高められるよう、様々な課題の解決に向けて今後も一層努力したい。また協議委員の方々のご厚意により、大学の研究室を訪問する機会を行事として行うことが出来るようになった。生徒の進路選択に関わる貴重な体験となるので、発展的に実践していきたい。

### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

様々な課題の中で、生徒の心身の悩みや進路・学習等に関わる教員のあり方、および体制の改善が大きな課題として取り上げられた。学校カウンセラーの増員・教員が生徒と深く関わる努力・教員の多忙さの解消などが求められた。しかし、生徒・保護者のあり方や教員に求めていることの中には、現代の時代性を反映して、小石川高校の精神である主体性・自主性・責任を伴う自由といった伝統に抵触するものが見られるようである。小石川高校の伝統としての精神を守りつつ、生徒・保護者の要求にまっとうに応えられるよう、指導の過程を正しく整えていきたい。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

### (1) 学校運営

- ・生徒・保護者との認識の交流を円滑かつ確実に行うようにし、共通理解を図ること。
- ・ホームルーム・保護者会等を通じて、生徒・保護者の要望を、より一層具体的に把握すること。

### (2) 学習指導

- ・これまでに行ってきた夏季休業中の補習や講習を、全教科にわたり日程を調整して全校的かつ計画的に行ったところ、生徒及び保護者から非常に高い評価を得た。

### (3) 進路指導

- ・学校運営連絡協議会の委員が主体となって、大学の研究室訪問が開催されることになった。生徒の進路選択に重要な役割を果たす行事として期待される。

### (4) 教職員

- ・興味・関心が持てる授業に向けて、各自が今後一層工夫し・努力すること。
- ・進路相談・心身の悩み等の相談に関わる生徒・保護者からの意見・要望に応えられるよう・校内研修会等を通じて、意見の交換・研修をおこなうこと。

### (5) 施設・設備

- ・進路指導室・資料コーナー・進路掲示板などを、より活用できるようにすること。

## 6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 協議委員回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
4	1	0	0	0	1	0